

+ 群 教 七	G03 - 02
	平25.251集
	高・英語

教科書本文の内容理解に基づき 自分の意見・考えを英語で表現する指導の工夫 ——副教材を使いながらより深い理解を目指して——

特別研修員 小此木 勝行

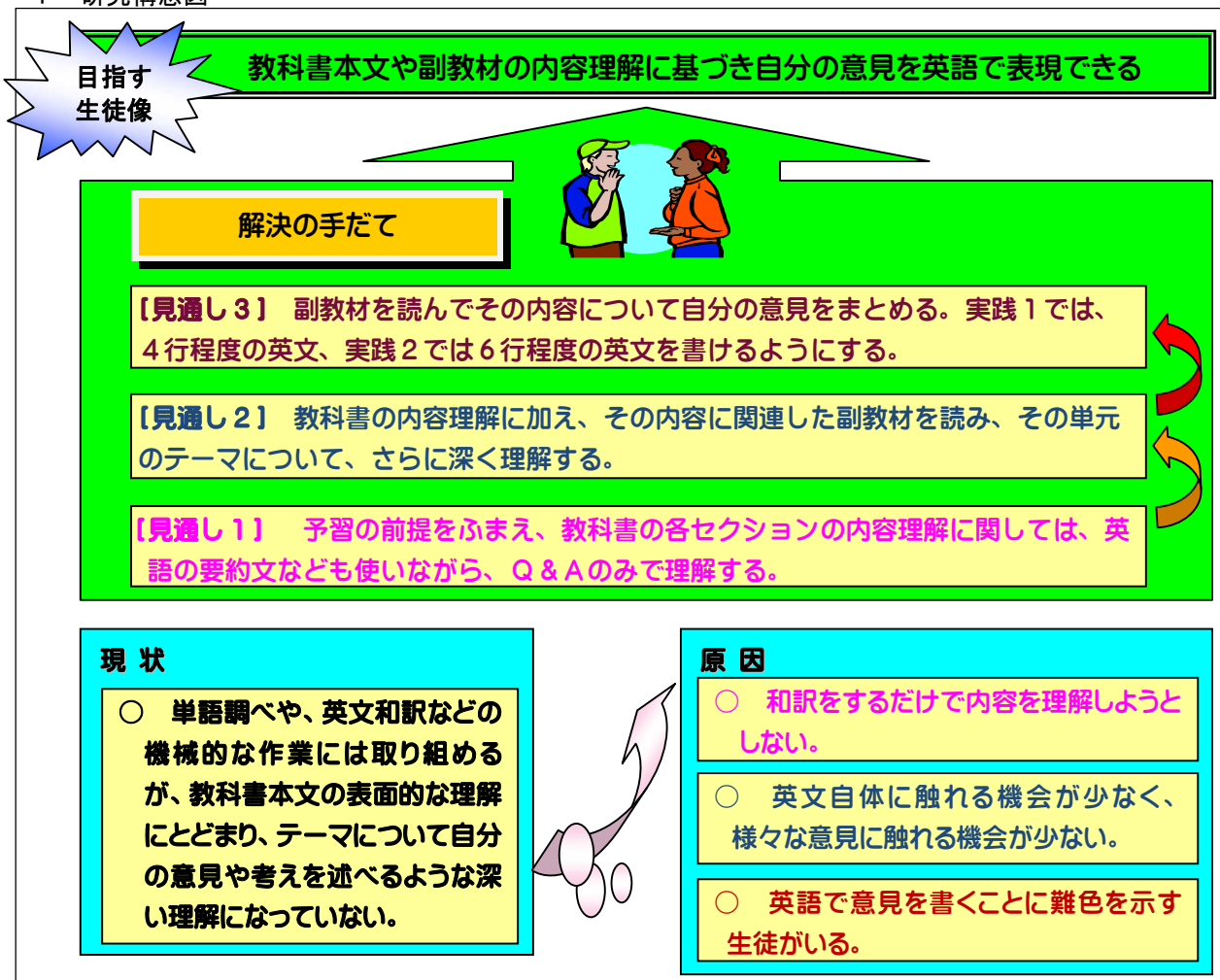
I 主題設定の理由

平成21年度告示の高等学校学習指導要領には、「思考力・判断力・表現力の育成」が基本的な考えとして述べられており、また、高等学校学習指導要領の外国語（英語）では、「情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことが求められている。

そこで、本研究では、生徒が和訳に頼らず、教科書の本文や内容に関連した副教材を理解し、さらに単元のテーマを基に自分の考えを英語で表現できるようになることに主眼をおいた。副教材を活用する理由は英文に触れる機会が少ないのでできるだけ様々な意見に触れさせるためである。授業スタイルとして具体的には、まず、教科書や副教材の英文を読み、その内容を理解する。次に、一人一人がグループ内で自分の意見を英語で述べ、最後にクラスの前でそれを発信する。以上の活動を通して教科書のテーマについてより深い理解を実現しながら自分の意見を表現することができると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

<授業実践①>

一つの単元の活動として、まず、教科書本文の内容を理解する。その際、訳読式の学習にならないよう英語でのQ&A活動を通して本文の概要を把握する。さらに、単元のまとめの活動で、教科書本文の内容理解を踏まえ、副教材として単元のテーマと関連する英文を与え自分の意見や考えを表現する活動を設定する。具体的には、以下のような副教材を使用して、自分の意見や考えを4行程度の英文でまとめさせる。

単元のまとめで使用する副教材の内容

- 1 英文理解・・・教科書本文の内容に関連していて、生徒が興味をもちやすい英文を用意する。実践①では、教科書の単元のテーマが「動物」であったため、副教材では「動物保護」に関する英文を用意する。
 - 2 Q&A活動・・・副教材の英文を多角的にとらえさせるための質問を設定する。
 - 3 表現活動・・・副教材の英文の中からキーセンテンスを選ばせ、それを選んだ理由を英文でまとめることで、自分の意見や考えを表現させる。
- ※ 自分の意見や考えを表現した英文は質的な面よりも量的なもので評価することとする。

<授業実践②>

実践①と同様の副教材を用意した。単元のテーマは「ファッション」であったため、「クールビズ」の内容の英文を与えた。実践②では、単元のまとめの活動で自分の意見をまとめる際、生徒同士でグループになり、まずは日本語で考えを出し合っ、それを英語にすることにした。これは、実践①では生徒がなかなか自分の意見や考えをまとめられなかったので、意見や考えをまとめやすくするためのスモール・ステップである。また、書く英文の量については、6行を目標とした。

III 研究のまとめ

1 成果

- 目標の英文を書くことができた生徒の人数は、1回目の授業実践では14人、2回目の授業実践では18人になり、わずかながら増加した。英文を書くことに慣れていない生徒が多くいたが、このような活動を繰り返し行ったことで、生徒の中に英語を書いてみようという意識が備わってきたと考える。
- 積極的に発言しようとしたり、辞書等を参照したりしながら、短時間で6行の英文を書き上げる生徒も数名いた。

2 課題

- 1時間の授業の中で、教材の読解をして、さらに英語の意見文を書くという活動は、生徒にとっては負荷のかかる作業であり、効率的な授業の進め方が必要である。
- 副教材の英文には、生徒にとって自分の意見や考えをまとめて表現しやすいものを選ぶことが必要である。

3 さらなる改善に向けて

- 書く内容について、まず日本語で考えを出す時間、英文を書く時間、発表する時間のバランス配分に注意しながら、生徒をそれぞれの活動に集中させる。
- 授業で取り扱う単元の順番を変えたり、単元の取り扱いに軽重を付けたりして、生徒の興味・関心を引き出す単元の計画作りをする。
- 今後生徒が十分な英文を書けるようになれば、量的な面に加え内容の質的な面も評価していく必要がある。

IV 実践及び改善の実例

実践 1

1 単元名 Lesson 2 “SLEEPING WITH LIONS” (第2学年 1学期)

2 本単元及び本時について

本単元で取り上げられている“動物保護”というトピックについて取り上げられたインターネットより入手した英文を載せたワークシートを提示する。本時（8時間中の8時間目）は単元のまとめの活動である。最初に教科書全体の内容を大まかに復習するために英語の質問をした。その後で、副教材の英文についてQ&A活動を通して内容を理解させた。さらに、英文の中からキーセンテンスを選ばせ、その選んだ理由を英語で説明させた。最後にグループ内で自分のまとめた英文をそれぞれ発表させた。

3 授業の実例

本時の展開例

学習活動と実践の成果

<導入>

1 教科書本文内容の内容理解（全員での活動）

- ① 文の内容に関する質問に答える。

(結果) 教科書本文の内容についていくつかの質問をだし生徒に答えさせる。単語レベルの解答であったがほとんどの生徒が理解できていたようだ。

<展開1>

2 副教材の内容理解

- ① 教師の後に続いて副教材に出てくる難解な単語の発音練習をする
(全員での活動)

- ② 副教材の音読をする
(グループ・ペアでの活動)

- ③ 文を読んでその後で、ワークシートのQ&Aに取り組む。必要に応じて、辞書を使用したり、教師に質問したりする。

(個人の活動)

読解にはスピードも大切なので、上記③の活動については制限時間内に読解できるよう促すこととした。

副教材（ワークシート<図1>）の内容について
左ページ・・・副教材の英文及びQ&A
右ページの上半分・・・英文を書く際の手順と実際に英文の書かれる部分
右ページの下半分・・・生徒にワークシートへ目を向けさせるためのイラストを入れた部分

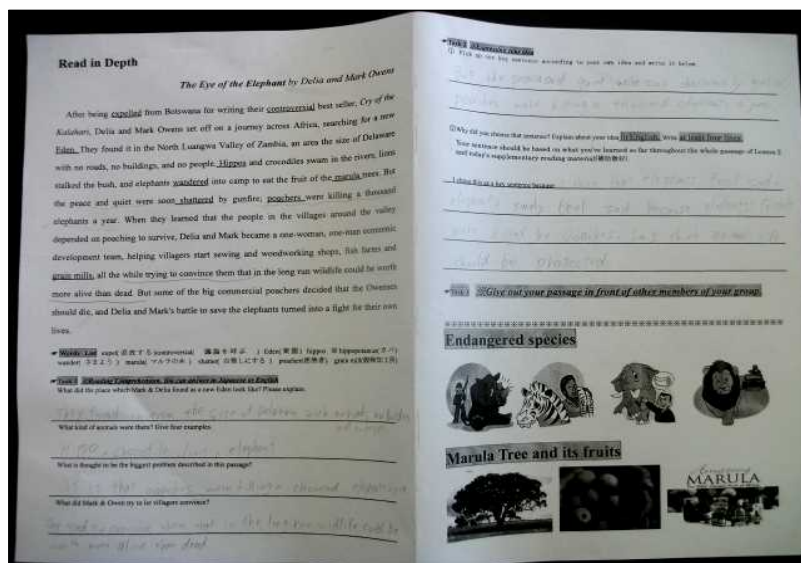


図1 実践1で使用した副教材

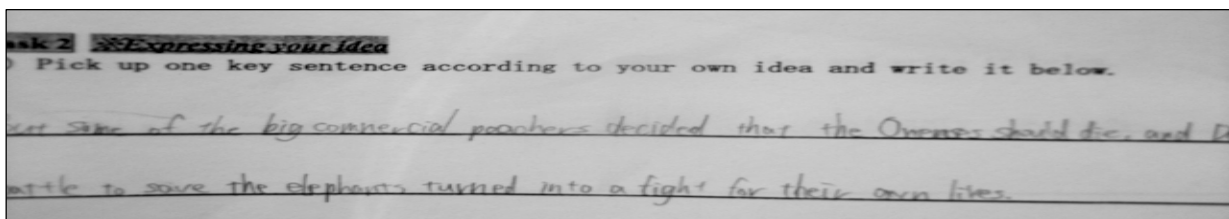
<展開2>

3 英語での意見作成

展開1と同様、最終的に一時間の授業の中で発表させることも考え制限時間を設けて作業に取り組みさせることとした。

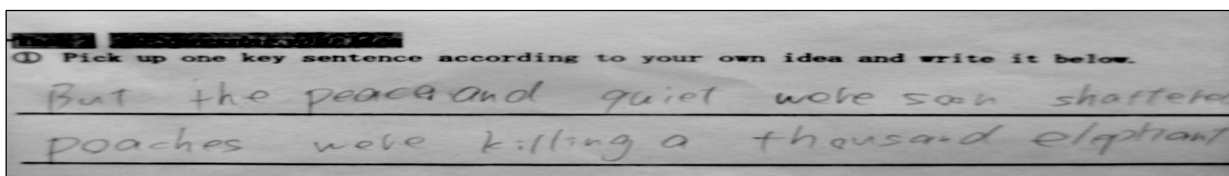
英文の中からキーセンテンスと思われる英文を一文抜き出させる。その際に、生徒の意見を尊重するため、どの文でも自由に選んでよいこととする。(グループ・個人での活動)

〔結果〕大体どの生徒も、同じような英文を抜き出していた。その後、ワークシートの指示に従い選んだ文について、どうしてその文を選んだかについて、意見を書いていた。例1と例2は生徒が選んだキーセンテンスと、どう考えたかについて書いた英文である。



I choose this as a key sentence because I agreed with their opinion. A thousand elephants are killed a year. I think that cruel. They are killed by poachers for us to get an elephant tusk.

図1 生徒の選んだキーセンテンスと英文例①(原文のまま)



I chose this as a key sentence because I think that elephants surely feel sad because their friends were killed by poachers. I think animals life should be protected.

図2 生徒の選んだキーセンテンスと英文例②(原文のまま)

<まとめ>

4 グループ内での発表

グループ内の生徒一人一人が発表をする。

(結果) 制限時間内に書けた英文の行数にばらつきがあったのでグループによって班員の発表の終わる時間はまちまちであったが、皆どうにか発表しようとしていた。

4 考察

キーセンテンスとなぜその文を選んだか理由を書かせることで、生徒は自分の意見や考えを表現することができた。しかし、最初から英語で書き出すことができない生徒もいるので、スモール・ステップとして、まず日本語で考えを出し合う活動が必要である。

実践 2

1 単元名 Lesson 4 “FASHION A Reflection of the Times” (第2学年 2学期)

2 本単元及び本時について

本単元で取り上げられている「ファッション」というトピックに関連して“クールビズ”について取り扱った副教材を用意する。始めに音読させ、ワークシートにあるQ&A活動により、内容を理解する。さらに、英文の中からキーワードを選ばせ、その選んだ理由を英語で説明させる。一回目の実践では直接英語で書かせたが、すぐに書き出せない生徒もいるので、二回目の実践ではグループになり、日本語でまず意見を出し合う。自分の意見がまとまった後、その日本語を英語に直した。最後にグループ内で自分の英文を発表した。

3 授業の実際

本時の展開例

学習活動と実践の成果

<導入>

1 副教材の音読

- ① 副教材のクールビズに関する英文を読む(図5)。(全員での活動)

<展開1>

2 副教材の内容理解

- ① 教材の音読をする。(全員での活動)
② 英文を読んでその後で、ワークシートのQ&Aに取り組む(図4)。必要に応じて辞書を使用したり教師に質問したりする。

(グループ・個人・ペアの活動)



図4 Q&Aに取り組む生徒

Read in Depth

Task 1 Read this English passage and answer the following questions.

Super Cool Biz season starts again *By Joe Jun 4, 2019*

The government began its Super Cool Biz campaign Monday to promote energy conservation in the workplace by urging people to dress lightly and casually and set their thermostat at 25 degrees.

Entering the third season of enhanced power-saving efforts, which cover the period from June to September, workers at ministries and agencies are advised to wear polo shirts, sweaters and even slacks during the office.

The Environment Ministry is preparing directives to encourage wear lighter clothing under the campaign, which was started in 2011 to cope with power shortage triggered by the Fukushima nuclear crisis.

Unlike the previous season, however, the ministry no longer allows workers to wear T-shirts, jeans and sandals due to a lack of clarity over what is appropriate, a ministry official said.

Prime Minister Shinzo Abe and Environment Minister Taro Arai on Tuesday will give a push to the campaign by wearing "light" — an informal shirt from Okinawa — as a Cool Biz message Tuesday.

Question 1 → What purpose did the government start Super Cool Biz campaign?

Question 2 → What are workers allowed to do?

Question 3 → What kind of campaign did Prime Minister Shinzo Abe and Environment Minister Taro Arai give to give a push? Explain in detail.

A page from a textbook. It contains a reading passage titled "Super Cool Biz season starts again" with three columns of text. Below the text are three numbered questions. At the bottom of the page, there are four small photographs showing people wearing light-colored, casual clothing like polo shirts and sweaters.

図5 実践2で使用した副教材

- Q&Aについては英文の細部にこだわらず概要を素早く理解できるようなものに工夫した。
- 内容理解の際には難解な語句に出くわし、理解に時間がかかり、その後の英文を書く活動の時間が無くなることも予想されるので、難解な語句については注釈を直接つけたり、ペアやグループで相談することを認め、また必要に応じて、辞書を引いたり、教師に質問させたりすることも内容理解につながる。

<展開2>

3 日本語での意見まとめ（グループ・個人での活動）（図5・図6）

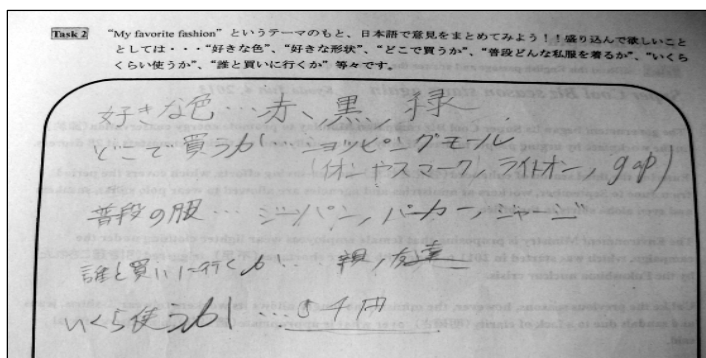


図5 ワークシート上の日本語によるメモの様子

いきなり英文を書くことに抵抗を示す生徒のために、グループ内で相談しながら日本語で意見をまとめさせた。

（結果）

話し合いの際には、どの生徒も活発に意見を出し合っていた。

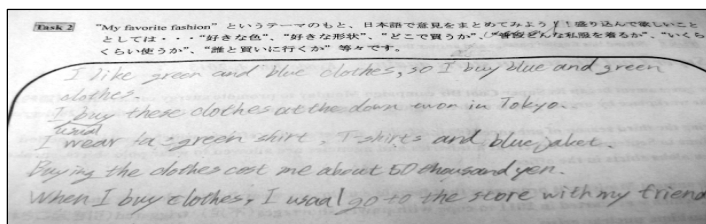


図6 ワークシート上の英語によるメモの様子

（結果）

最初から英語で表現し、後で英文を整理する生徒もいた。

<展開3>

4 英語での意見作成（個人での活動）

（結果）

<生徒の書いた英文例1（原文のまま）>

I like clothes which is old. I buy it when I usually go shopping to the urban area with my friends. I like skinny pants, which is comfortable for me to wear and its design is very good. My favorite color is black because I think it simple. But in the end, the cheapest one is the best.

<生徒の書いた英文例2（原文のまま）>

My favorite color is white and black. I bought the clothes at Yunikuro and Shimamura. I don't like colorful. I often wear T-shirt and shorts. I usually wear a coat during the winter season.

<まとめ>

5 グループ内で発表

4 考察

- 実践①よりも生徒は多くの英文を書くことができ、自分の意見や考えを十分に表現できた。
- また、英語で意見を書く過程に、日本語で意見を出し合うという活動を入れた結果、生徒は活発な意見交換をすることができた。ただし、将来的には、日本語を介さずに直接英語で自分の意見が表現できるようにしたい。
- 英文を書くスピードには個人差があるので、活動の途中で、よく書けている生徒の英文をクラス全体に向けて発表させると書けていない生徒にとっては今後のヒントにもなると考える。